

クラス番号	636	担当教員名	火口弥生
テーマ	地域の中の居場所作り ～「はたらく」を支援する～		
著書・論文 研究課題等	「高齢者・医療・介護 現場からのレポート」大阪民主医療機関連合会編 清風堂書店 「ソーシャルワーク 事例研究の理論の実際」共著 中央法規		

ゼミナール概要

キーワード：地域のネットワーク作り 居場所 認知症 つなぐ

目的、内容、方法等：

私は、「居場所」は目的を持って行く（来る）場所である必要性を感じています。以前は、様々な年代の方が好きな時に集うイメージで、居場所作りを試みようとしていました。しかし、人が行動するには理由があるものです。そう考えると「居場所」も目的を明確にすることで、それを求めている人たちが集まってくる事に気づきました。

現在は、“福祉で地域をつなぐ”をキャッチコピーとし、デイサービスや就労継続支援 B 型事業所の運営に携わっています。これまで、様々な理由で「生きづらさ」を感じている多くの方に出会ってきました。私たち自身のためにも、居ても良いと思える居場所を地域の中に作る必要があります。また、居場所と感ずるためには、①一人じゃないと実感できる。②誰かにつながっていると実感できる。③誰かの役に立っていると実感できる。実際にどうかではなく、そう実感できていることに意味があると考えます。就労継続支援では「職を通して居場所と社会につながるお手伝い」を目指しています。

ゼミでは、一人ひとりの居場所作りに「誰かにつながる・誰かの役に立つ」ということを軸に、出来ることで社会とつながるための支援について考えていきたいと思えます。

授業計画：

- ① 「生きづらさ」を抱えながら「はたらく」ことの意味について、実践事例から学ぶ
- ② 認知症の方の「はたらく」支援として「注文を間違える料理店」プロジェクトに習い、企画を立てる
- ③ その他、「生きづらさ」を抱える方の「はたらく」支援としての企画を立てる
②③などは一例で、企画立案は各自、興味のある分野をさぐる
- ④ 自分たちで立てた企画を施設や地域に提案し、実施する

※興味関心を企画という形にし、実施、振り返りまでの一連のプロセスを通しての学び

- ・目の前にいるその人のために出来る事を考える力をつける
- ・プレゼンテーション力をつける
- ・ネットワーク作りの方法と面白さを学ぶ
- ・プロセスを丁寧に記録することで、次の実践にもつながる事を実感する

担当教員からのメッセージ

人を動かすには労力が必要ですが、まずは自分自身が楽しむこと。わくわくすることが人を動かす原動力となります。

わくわくして脳を喜ばせながら、たくさん考えて・話し合っって・動いて・関わっていく中で、自分の興味関心を深める機会としてください。